殺菌剤

日曹 バクテサイド®水和剤

登録番号	第 24210 号
性　　状	淡青緑色水和性粉末 45μm 以下
有効期限	4 年
毒　　性	普通物（毒劇物に該当しないものを指していう通称）
包　　装	1kg ×10 袋

日曹の農薬

有効成分　アルキルトリメチルアンモニウムカルシウムオキシテトラサイクリン　1.8%（オキシテトラサイクリンとして 1.0%）
ストレプトマイシン硫酸塩　12.5%（ストレプトマイシンとして 10.0%）、水酸化第二銅　38.4%（銅として 25.0%）

種 類 名　オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン・銅水和剤　　殺菌剤分類 41,25,M1

■特　長

1. 細菌に対して高い抗菌活性をもつ 2 種類の抗生物質と、残効性を期待できる銅剤を効果的に配合した 3 種混合剤です。
2. 有効成分はともに作用点が異なるため、耐性がつきにくい製剤となっています。

製品ページはこちら

■適用病害名及び使用方法　　（2025 年 11 月 21 日現在）

作物名	適用病害名	希釈倍数（倍）	使用液量（L/10a）	使用時期	本剤の使用回数	オキシテトラサイクリンを含む農薬の総使用回数	ストレプトマイシンをを含む農薬の総使用回数	銅を含む農薬の総使用回数	使用方法
ばれいしょ	そうか病	50～100	－	植付前	1回	5回以内（種いもへの処理は1回以内）	5回以内（種いもへの処理は1回以内）	－	種いも瞬間浸漬
	黒あし病								
	軟腐病	750～1,000	100～300	収穫7日前まで	5回以内				散布
たまねぎ		500～1,000				5回以内	5回以内		
はくさい		1,000		収穫14日前まで	3回以内	4回以内	3回以内		
樹木類	枝枯細菌病		200～700	新梢伸長期～発病初期	5回以内	5回以内	5回以内		

⚠ 効果・薬害などの注意

1. 使用量に合わせ薬液を調製し、速やかに使いきってください。
2. 石灰硫黄合剤との混用はさけ、またボルドー液と混用する場合は、使用直前に混合してください。
3. 本剤の使用により、薬害としてクロロシス（黄化現象）を生じることがあります。特に高温多湿時には薬害を生じやすいので、留意の上散布してください。
4. はくさいに対して薬害を生じやすいので、炭酸カルシウム水和剤を加用し次の事項に十分注意してください。
   （1）幼苗期は特に薬害を生じやすいので、中期以降の散布にしてください。
   （2）高温時には症状が激しくなるので散布はさけてください。
   （3）炭酸カルシウム水和剤の加用は薬害軽減に有効ですが、収穫間際には汚れを生じるので留意してください。
5. ばれいしょの種いも処理にあたっては以下の点に留意してください。
   （1）萌芽後や種いも切断後の処理は薬害を生じるのでさけ、必ず萌芽前に種いもを切断せずに処理してください。特に春先の気温の低い地域では植付け後の地温の上昇が遅れ、萌芽や生育の遅延が助長される場合があるので注意してください。
   （2）浸漬時間が長くなったり、高濃度液に浸漬すると薬害を生じやすいので、所定の浸漬時間及び希釈倍数を厳守してください。
   （3）薬剤処理した種いもは長時間ぬれたままにしておくと発芽遅延等の薬害を生じるので、風通しのよい場所で速やかに乾燥させてください。
   （4）薬剤処理した種いもを切断する場合は、処理した薬液が十分乾いてから行ってください。
   （5）薬剤処理した種いもは食糧又は飼料には使用しないでください。
   （6）調製した薬液は、調製当日に使用してください。
   （7）薬液の調製容器、種いも処理に使用した容器、器具などは水でよく洗浄し、その洗浄液及び残液、廃液はかんがい水路、排水路、河川、湖沼、井戸などの水系へ流さずに、環境に影響のないように適切に処理してください。

6. 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
7. 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
8. 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

⚠ 安全使用上の注意



9. 誤飲、誤食などのないよう注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
10. 粉末は眼に対して強い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。また薬液も眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
11. 薬液調製時及び使用の際は保護メガネ、防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。また、粉末や薬液を吸いこんだり浴びたりしないよう注意し、作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
12. 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
13. かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけてください。
14. 夏期高温時の使用をさけてください。
15. 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

● 水産動植物への影響

水産動植物(甲殻類、藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

● 保管上の注意

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には、使用しないでください。
●小児の手の届く所には、置かないでください。●空容器・空袋はほ場などに放置せず、適切に処理してください。